

平成24年度上期の
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと
今後の課題について

平成24年7月20日
社団法人 日本酪農乳業協会
需給委員会 (第2回: 7月11日開催)

1. 地域別生乳生産量の動向

【生乳生産量予測の前提】

- ・都府県及び全国の予測値は、指定団体ブロック別の生乳生産量予測値を合算して算出。
- ・指定団体ブロック別の予測値は、過去の生乳生産量実績データの動向パターンに基づく、気温や乳牛頭数等を組み込んだ予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。
- ・平成 24 年度の気温は、平年並で設定している。

表 1：平成 24 年度上期 地域別生乳生産量（見通し）

(千トン)

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4 月	649	103.3%	325	100.6%	324	106.1%
5 月	671	101.4%	340	101.0%	332	101.9%
6 月	642	102.2%	331	101.0%	311	103.4%
7 月	639	102.5%	338	102.3%	301	102.6%
8 月	623	101.4%	333	102.2%	290	100.5%
9 月	602	101.3%	321	102.5%	282	100.1%
第 1 四半期	1,963	102.3%	996	100.9%	967	103.8%
第 2 四半期	1,865	101.8%	992	102.3%	873	101.1%
上期	3,828	102.0%	1,988	101.6%	1,840	102.5%

概要

24 年度上期の生乳生産量は、23 年度後半に引き続き、前年度を上回って推移するものと見込まれる。

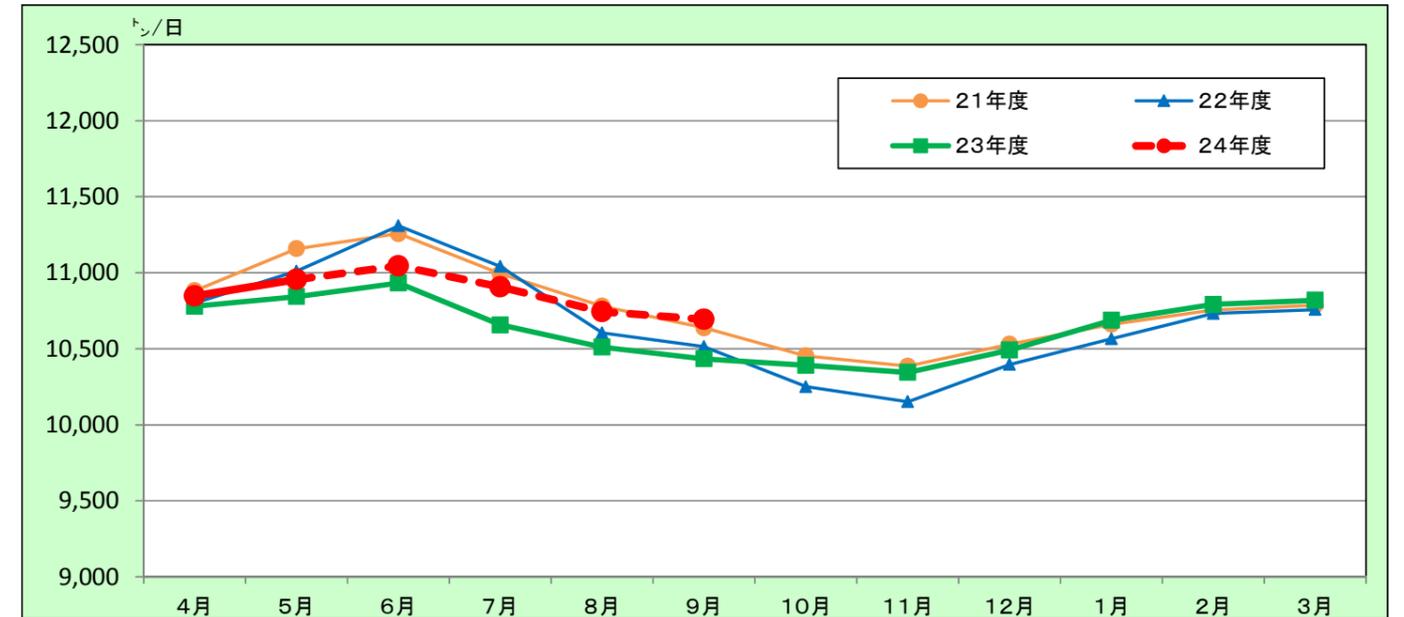
なお、都府県における 4 月の前年比が大幅な増加を示しているのは、東日本大震災の影響によるものである。

【生乳生産量の見通し】

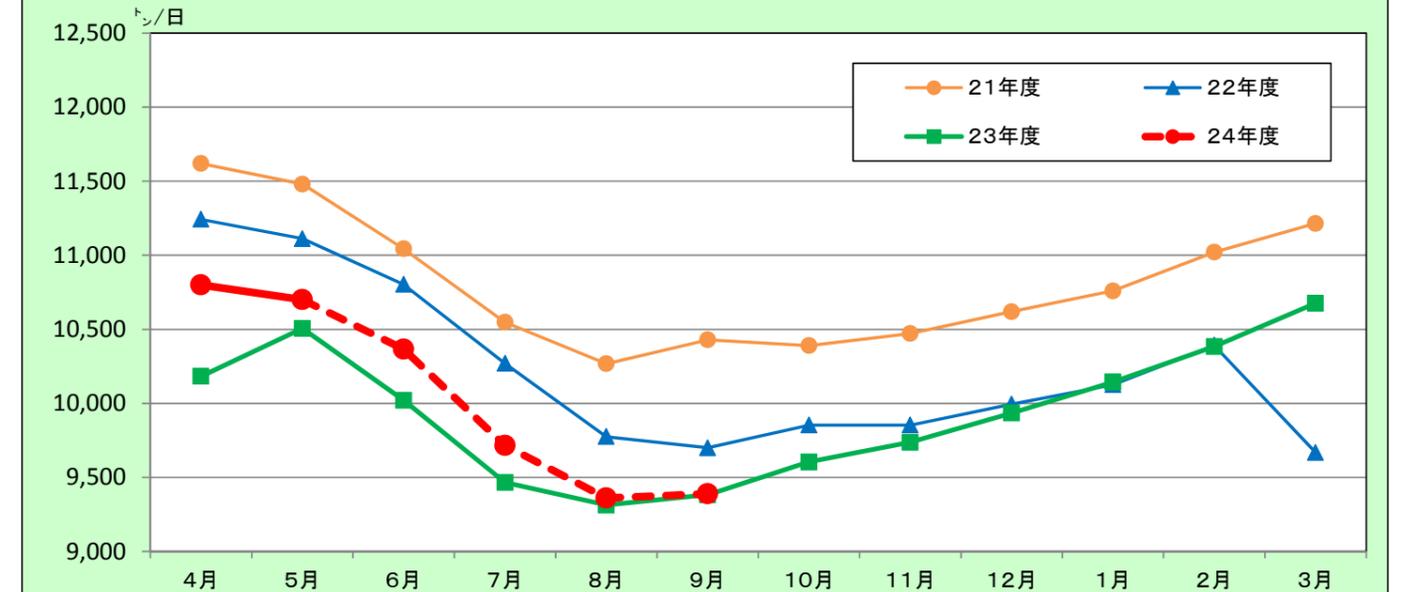
直近の生乳生産量においては、24 年度生乳計画生産数量が前年度実績以上で配分されたこと、北海道、都府県ともに、乳用雌牛のうち 2～4 歳の飼養頭数が増加傾向で推移していること、1 頭当たり乳量が前年度を上回って推移していること、また、気温も平年並み程度であること等から、生乳生産量は前年度を上回って推移しており、上期においては引き続きこの傾向で推移すると見込まれる。

しかしながら、今後の天候や気温の動向によっては、特に都府県で初産牛が増加傾向にあることから、暑熱による乳牛へのダメージが従来に比較して強く現れることが危惧される他、自給飼料の生産・調整への影響も懸念され、引き続き生乳生産量の動向を注視する必要がある。

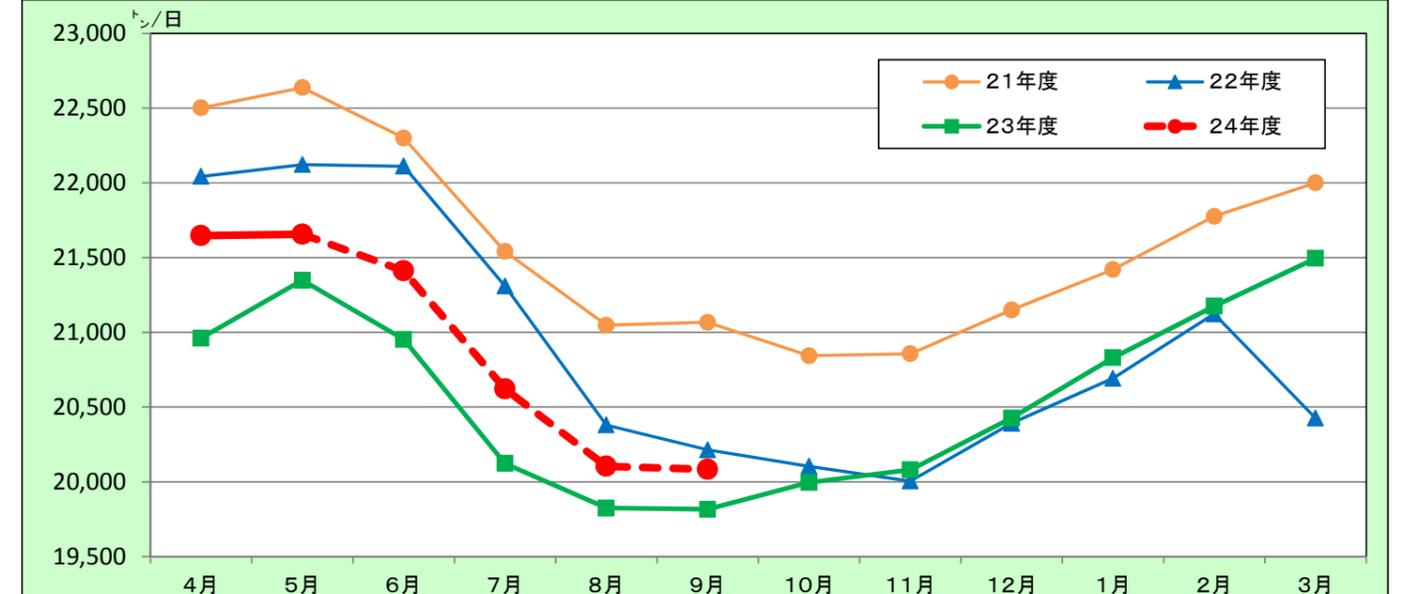
グラフ 1-1：北海道の生産量（日均量）



グラフ 1-2：都府県の生産量（日均量）



グラフ 1-3：全国の生産量（日均量）



2. 牛乳等生産量の動向

【牛乳等生産量予測の前提】

・各々の予測値は、過去の生産量実績データの動向パターンに基づく、気温や平日日数等を組み込んだ予測モデル(ARIMA モデル)による推計値を基本に算出。
 ・平成 24 年度の気温は、平年並で設定している。

表 2：平成 24 年度上期 牛乳等生産量（見通し）

	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4 月	394	98.2%	247	97.4%	13	71.1%	30	106.2%	103	102.7%	86	127.2%
5 月	423	98.3%	264	97.8%	13	79.7%	32	96.5%	114	102.8%	89	124.1%
6 月	422	97.9%	263	97.3%	13	83.7%	32	96.6%	114	101.7%	87	111.0%
7 月	424	97.1%	254	96.9%	14	83.8%	34	96.2%	122	99.4%	86	112.5%
8 月	413	97.7%	240	97.6%	14	87.4%	35	96.2%	124	99.5%	82	111.6%
9 月	435	97.5%	265	97.6%	14	85.6%	34	97.1%	122	99.2%	81	106.8%
第 1 四半期	1,240	98.1%	775	97.5%	40	77.8%	94	99.5%	331	102.4%	262	120.4%
第 2 四半期	1,272	97.4%	760	97.4%	43	85.6%	102	96.5%	367	99.4%	249	110.3%
上期	2,512	97.8%	1,534	97.5%	83	81.6%	197	97.9%	698	100.8%	511	115.2%

概要

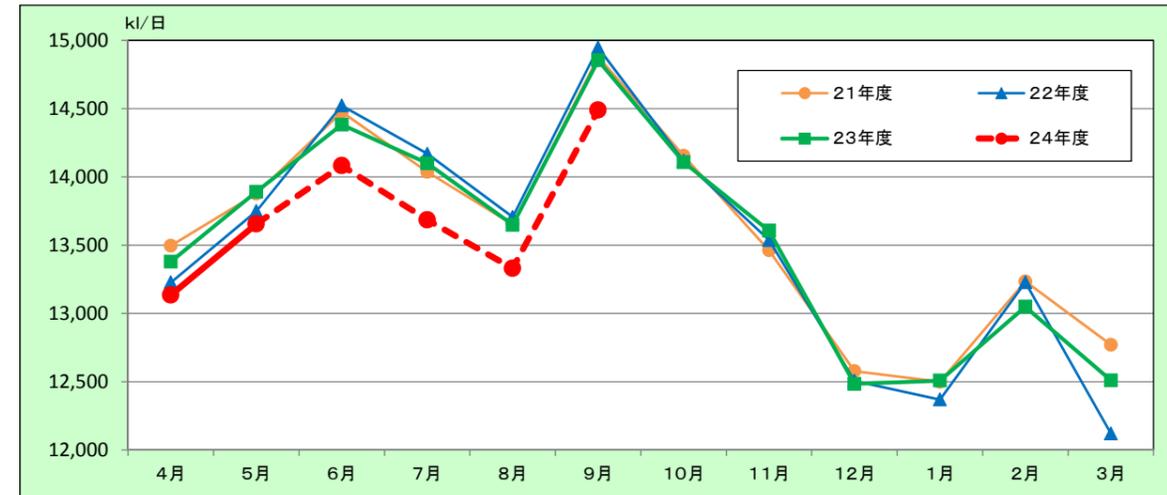
24 年度上期の牛乳等の生産量は、牛乳類は全体的には前年度を下回って推移するものと見込まれる。また、はっ酵乳は引き続き前年度を上回って推移するものと見込まれる。

【牛乳等生産量の見通し】

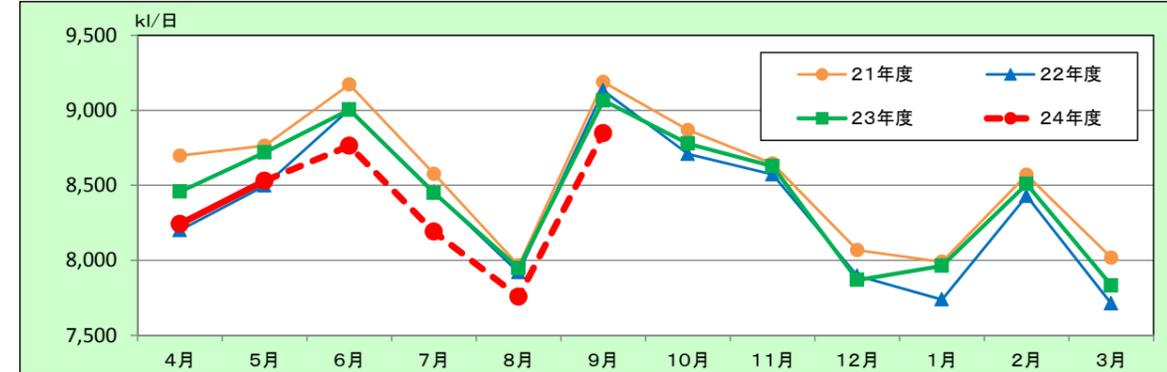
24 年度上期においては、種類別に見ると、「牛乳」は前年比 97~98% 程度の減少傾向で、「加工乳」「成分調整牛乳」も大幅に減少した 23 年度を更に下回って推移するものと見込まれる。これに対して、「乳飲料」は大きく増加した 23 年度と同程度で推移するものと見込まれる。

「はっ酵乳」は引き続き好調に推移しており、今後は伸び率がやや鈍化するものの増加傾向は継続するものと見込まれる。

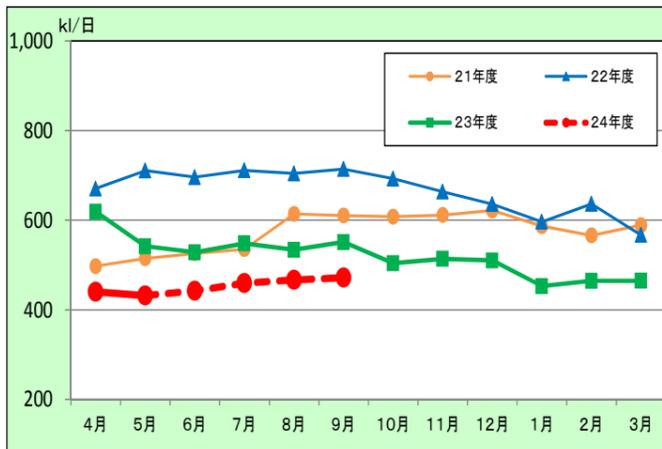
グラフ 2-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



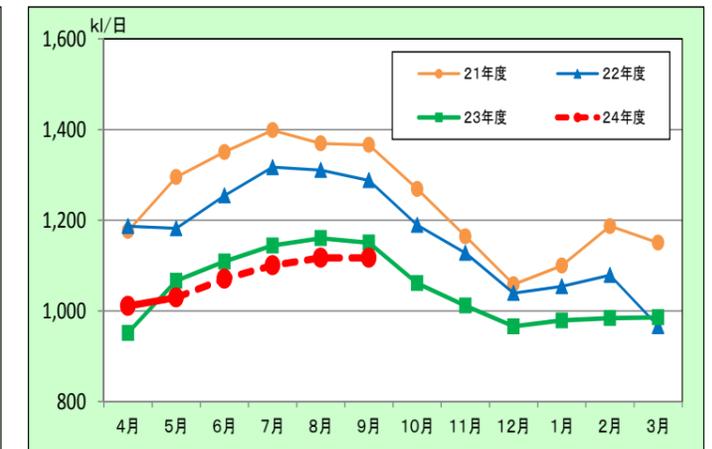
グラフ 2-2：牛乳の生産量（日均量）



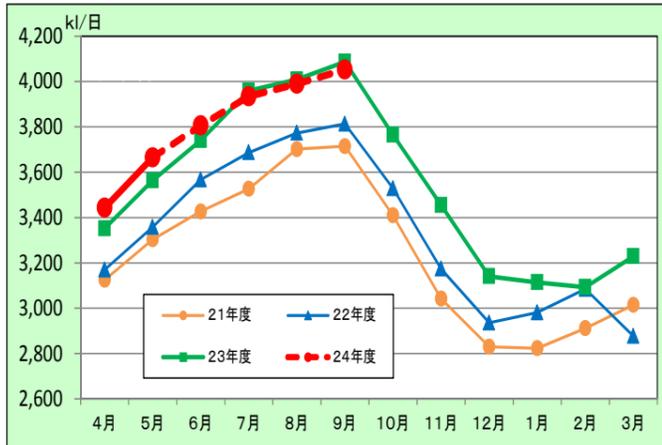
グラフ 2-3：加工乳の生産量（日均量）



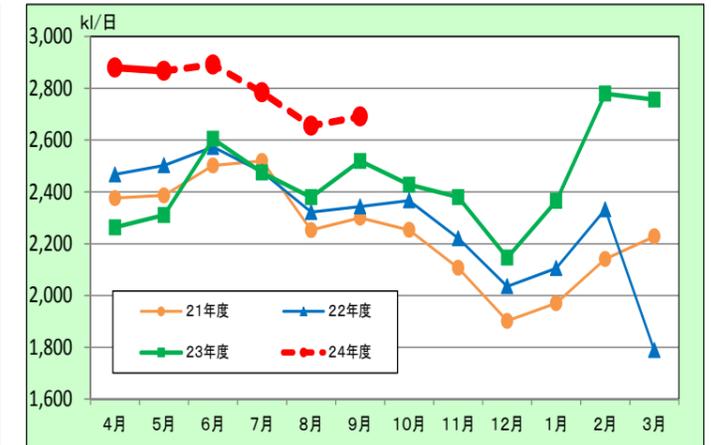
グラフ 2-4：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ 2-5：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ 2-6：はっ酵乳の生産量（日均量）



3. 用途別処理量の動向

【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出(自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定)。
- ・牛乳等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を元に、生乳使用率、比重(1.032)及び歩留まり(99.5%)を勘案して算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

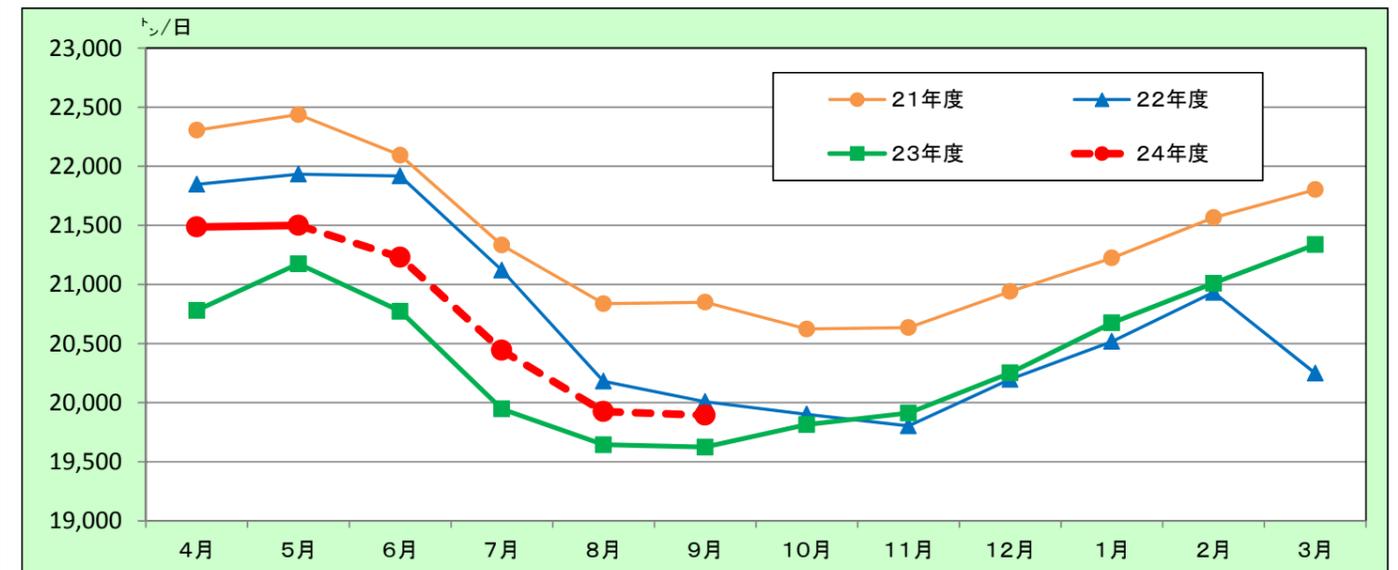
表3：平成24年度上期 生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	649	103.3%	5	89.6%	645	103.4%	329	98.0%	316	109.7%
5月	671	101.4%	5	89.1%	667	101.5%	351	97.8%	316	106.0%
6月	642	102.2%	5	101.0%	637	102.2%	349	99.2%	288	106.1%
7月	639	102.5%	6	101.0%	634	102.5%	354	98.9%	280	107.5%
8月	623	101.4%	6	99.2%	618	101.4%	337	99.4%	281	104.0%
9月	602	101.3%	6	98.9%	597	101.4%	355	98.9%	241	105.2%
第1四半期	1,963	102.3%	15	93.2%	1,948	102.4%	1,028	98.3%	920	107.3%
第2四半期	1,865	101.8%	17	99.7%	1,848	101.8%	1,046	99.1%	802	105.5%
上期	3,828	102.0%	32	96.5%	3,796	102.1%	2,074	98.7%	1,722	106.5%

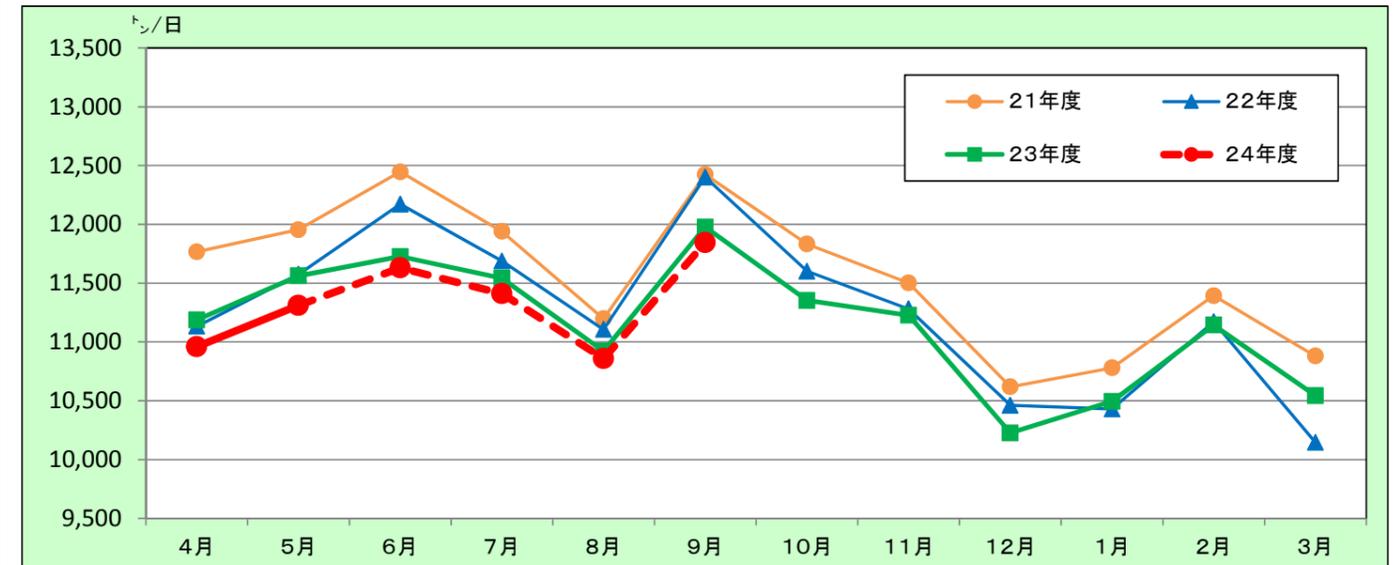
【用途別処理量の見通し】

24年度上期においては、生乳供給量が前年度を上回って推移すると見込まれるのに対し、牛乳等向処理量は前年度を下回って推移すると見込まれる。このため、乳製品向処理量は前年度を上回って推移するものと見込まれるが、生乳生産量は見通しから下振れする可能性もあることから、今後の乳製品向処理量は引き続き注視する必要がある。

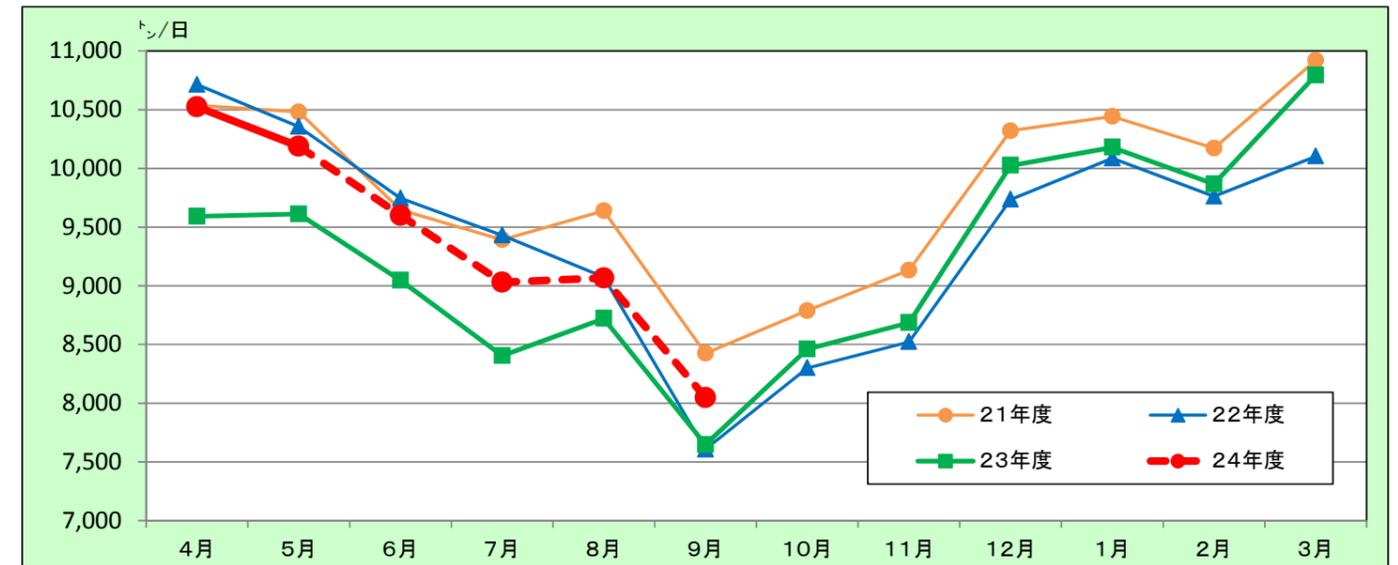
グラフ3-1：生乳供給量（日均量）



グラフ3-2：牛乳等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品等向生乳処理量（日均量）



4. 都府県の生乳需給の動向

【都府県生乳需給予測の前提】

- ・都府県の「その他乳製品(生クリーム等・チーズ)向処理量」は、前年同数(前年比 100%)で設定。
- ・「特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)向処理量」は、「過不足(A-B-C)」+「移入量」-「移出量」で算出。
- ・「移入量」は、下記 2 点の基本的考え方にに基づき設定。
 - ① 都府県で製造する北海道ブランド牛乳のために、必要な移入量は必ず発生するものとして設定。
 - ② 生乳需給上、ある程度の特定乳製品向処理量は必ず発生するものとして設定。

表 4 : 平成 24 年度上期 都府県の生乳需給 (見通し)

	生乳供給量		牛乳等向処理量		その他乳製品向処理量		過不足 A-B-C	移入量 (道外移出量)		移出量	特定乳製品向処理量	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比		前年比	前年比		前年比	
	4 月	322	106.3%	284	96.8%	16		113.8%	22		20	76.1%
5 月	329	101.9%	305	97.2%	14	97.7%	11	22	77.6%		32	138.0%
6 月	308	103.5%	303	98.9%	14	100.0%	-8	31	86.4%		23	164.4%
7 月	299	102.7%	306	98.9%	14	100.0%	-21	37	85.0%		17	136.5%
8 月	288	100.6%	288	99.9%	14	100.0%	-14	32	95.1%		18	101.7%
9 月	279	100.1%	307	98.6%	14	100.0%	-42	49	91.2%		7	101.2%
第 1 四半期	959	103.8%	892	97.6%	44	103.7%	24	73	80.7%		97	164.1%
第 2 四半期	865	101.1%	900	99.1%	41	100.0%	-76	118	90.1%		42	113.0%
上期	1,825	102.5%	1,792	98.4%	85	101.9%	-52	191	86.3%		139	144.4%

【都府県の生乳需給の見通し】

24 年度上期は、北海道から都府県に移出される生乳量(道外移出量)が、都府県における生乳生産量の増加と牛乳等向処理量の減少から、前年度に比べ減少するものと見込まれる。

しかしながら、牛乳等向生乳需要は天候や気温の動向によって大きく変動する可能性があること、牛乳乳製品の生産面においても、計画停電や節電が実施された場合、生産工場における製造品目の集中や変更等の対応をする可能性があること等を踏まえ、今後の生乳需給動向については十分に注視しておく必要がある。

5. 特定乳製品需給の動向

【特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)需給予測の前提】

- ・特定乳製品向処理見込数量は、乳製品向処理量からその他乳製品(生クリーム等・チーズ)向処理見込数量を差し引いて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの生産量は、特定乳製品向処理見込数量に製造係数(直近の動向等を反映した数値)を乗じて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの消費量は、過去の実績データの動向パターンに基づく、価格や代替関係にある乳製品の処理見込数量等を変数に組み込んだ予測モデル(ARIMA モデル)による推計値を基本に算出。
- ・乳製品の在庫月数は、当該月の在庫量を前年度の一ヶ月平均の消費量で割ることで算出している。

表 5 : 平成 24 年度上期 脱脂粉乳の需給 (見通し)

	生産量		輸入 売渡し B	消費量		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
	4 月	13.3		106.7%			12.7	98.3%	0.5
5 月	12.6	99.1%		12.5	98.8%	0.1	48.2	4.0	82.9%
6 月	11.4	107.8%		12.9	92.0%	-1.6	46.7	3.8	85.3%
7 月	9.8	112.4%		12.8	98.0%	-3.0	43.7	3.5	85.3%
8 月	9.8	104.1%		12.8	101.4%	-3.0	40.6	3.3	85.7%
9 月	8.1	102.8%		12.8	105.7%	-4.7	35.9	3.0	83.8%
第 1 四半期	37.2	104.3%		38.2	96.2%	-1.0	46.7	3.8	85.3%
第 2 四半期	27.7	106.5%		38.4	101.6%	-10.7	35.9	3.0	83.8%
上期	64.9	105.3%		76.6	98.8%	-11.7	35.9	3.0	83.8%

表 6 : 平成 24 年度上期 バターの需給 (見通し)

	生産量		輸入 売渡し B	消費量		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
	4 月	6.7		119.1%			6.4	92.1%	0.4
5 月	6.5	110.7%	1.3	6.3	91.8%	1.4	20.9	3.2	101.3%
6 月	5.4	107.8%	1.9	5.3	78.3%	1.9	22.8	3.5	107.3%
7 月	4.8	112.4%	0.8	5.8	86.9%	-0.2	22.6	3.5	109.2%
8 月	4.7	104.1%	1.9	5.6	98.7%	1.0	23.6	3.7	113.4%
9 月	3.5	102.8%	1.3	5.5	91.7%	-0.7	22.9	3.5	112.6%
第 1 四半期	18.6	112.7%	3.2	18.1	87.5%	3.7	22.8	3.5	107.3%
第 2 四半期	13.1	106.7%	4.0	17.0	95.2%	0.1	22.9	3.5	112.6%
上期	31.7	110.1%	7.2	35.0	91.0%	3.8	22.9	3.5	112.6%

【特定乳製品(脱脂粉乳・バター)需給の見通し】

24 年度上期の用途別処理量においては、乳製品向処理量が前年度を上回って推移するものと見込まれる。なお、その内訳であるその他乳製品(生クリーム等・チーズ)向処理量及び特定乳製品(脱脂粉乳・バター)向処理量は何れも前年度を上回って推移するものと見込まれる。

こうした中、脱脂粉乳については、生産量は前年度に比べ増加傾向となるが、「乳飲料」「はっ酵乳」の消費の伸びを背景として需要も好調で、飲用最需要期を含む上期においては、需要量が生産量を 11.7 千トン上回ると見込まれる。この結果、24 年度上期末における在庫量は 35.9 千トン(3.0 ヶ月分)となり、前年度上期末と比較しても 7.0 千トン(前年比 83.8%)の在庫減少が見込まれる。

バターについては、生産量は前年度に比べ増加傾向となり、また 24 年度のカレントアクセス分輸入数量として年間予定数量 7.4 千トンのうち 7.2 千トンが上期中に売り渡される予定となっていることから、24 年度上期末における在庫量は 22.9 千トン(3.5 ヶ月分)と見通される。しかしながら、国産バターについては依然として厳しい需給状況にあることに留意が必要である。

6. 今後の課題と対応について

【需給動向を踏まえた今後の課題と対応】

(1) 夏期における牛乳等向生乳の的確な需給調整対応の実施

24年度上期においては、生乳生産量は前年度を上回って推移し、一方、牛乳類の消費は全体としては前年度を下回って推移すると見込まれる。しかし、「乳飲料」「はっ酵乳」の消費が堅調である一方、その主要な原料である脱脂粉乳在庫が減少傾向にあることから、牛乳等向生乳需給は不透明な状況にある。

こうしたことから今後、生乳生産面では、暑熱対策や適切な飼養管理の徹底等によって夏期における生乳生産量の低下を最小限に留める対策に努めることが重要である。また、需給調整の面では、酪農乳業が一体となって、牛乳乳製品の万全な安定供給体制の準備及び綿密な情報共有に努め、都府県への北海道からの生乳移入量の見極め及び地域別需給動向に配慮したきめ細かい需給調整対応を行っていくことが肝要である。

(2) 特定乳製品需給状況の的確な情報共有・情報発信の実施

24年度上期における生乳生産量は前年度を上回って推移すると見込まれるものの、引き続き酪農家戸数及び総飼養頭数が減少し生乳生産基盤は縮小基調にあることから、現状においての生乳供給量は、乳製品向生乳も含めた総生乳需要に十分に足りられない状況である。また、その他乳製品の需要が堅調なことに加え、今後の生乳生産量の動向が現状の見通しからさらに下振れする可能性もあり、特定乳製品の需給は楽観視できない状況である。

こうした状況を踏まえ、酪農乳業関係者は、行政とも連携し、業界全体で情報共有に努め、安定した生乳生産及び牛乳乳製品の供給について、一丸になって取り組むとともに、一般消費者も含めたユーザーに対する適切な需給情報の発信、需給調整に努めていくことが重要である。